

伊与喜小学校

「未来に生きる力を
身につけた児童の育成」

校長 川村 美香

◆はじめに

平成の時代が終わり、5月1日より新元号「令和」が施行され、新時代がスタートしました。今年、伊与喜小学校にとっても変革の時期を迎えた重要な年で、昨年度より5人少ない児童数10名でスタートしました。

学級数は、単式学級が1つ、複式学級が2つ、特別支援学級(今年度から設置)が1つの4学級となり、教職員は1名増加の7名で教育活動を進めています。児童数減少にもなっており、家庭数も年々減っていることから、あらゆる面で精選や見直しを余儀なくされている状況ですが、保護者ならびに地域全体がとも協力的に温かく、これまで以上に学校・保護者・地域が三位一体となって各種行事や学習活動などに取り組み、歩みを進めていきたいと考えています。



◆学校教育目標

「未来に生きる力を身につけた児童の育成」

◆小規模校の良さを生かした取組

本校の強みは、「目が行き届く」であり、全教職員が児童に寄り添えることです。チーム伊与喜として、すべての教育活動を、より弾力的で効率的な活動につなげながら取組を進めていきます。

◆具体的な取組

○複式教育の充実

2つの学年が同じ教室で学習を行うため、1時間の学習の中で、教師が直接児童にかかわる「直接指導」の時間と、メニューカードをもとに児童自身で主体的に学び合う「間接指導」の時間があります。間接指導の時

間は、児童が主体的・協働的に学び合いを行うことのできる大切な時間で、複式授業ならではのプラス面ととらえています。今年度も校内研修において積極的に講師招聘を行い、授業改善への取組を進めていきます。

○基礎学力の定着

1日の日課の中に、放課後学習を取り入れています。全児童が30分間、自分のペースで国語と算数の問題に取り組んでいます。主に、復習が中心で、基礎学力の定着を図る貴重な時間になっています。また、日々の読書活動や読書量の目標設定、チャレンジ読書の選定や読書したことへの評価活動、家庭読書への取組など、文章に親しむ取組を継続して行っています。

毎日の家庭学習に、復習に限らず予習の内容を取り入れて、次の日の授業を意識させる取組も行っています。

○心の教育の充実

人権教育・道徳教育を核心に、心の教育を推進していきます。特に日々の授業の中で、ともに認め合える場を心がけて設定することで、

自尊心を高める手立てとしていきます。また、学校行事や体験活動による集団づくりも積極的に進めています。

毎月定期的に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーおよびスクールヘルスリーダーを交えた校内支援会を実施することで、児童のよりよい支援にもつなげていきます。

○体力・運動能力の向上

年間を通じた業間運動への取組、体育の授業の工夫、外遊びの奨励、生活調べによる基本的生活習慣の啓発活動、徒歩による集団登下校、児童会による放課後遊びの計画と実施などの取組を推進しています。

○ふるさと・キャリア教育の実践

低学年から地域に出向き、「出合い、触れ合い」の学習からスタートします。中学年になると、それよりさらに進み、地域活動に参加して交流する「出合い、繋がる」という活動につなげます。そして、高学年で、地域を「深く見詰め、自分にできること」を考える活動へとつなげていきます。これら

◆おわりに

昨年度より、全児童による話し合い活動を積極的に取り入れています。これは、学年の枠を超えて主体的・協働的な活動場面を増やすことで、集団の中での表現力や思いやりの心を育み、伊与喜家の絆を深めたいと考えているためです。今後、「今日も1日楽しかったね。明日も早く学校に行きたいね」と思える学校づくりを推進していきます。



田ノ口小学校

「本気 根気 元気」

校長 濱田 俊二

◆はじめに

本年度は新入生4名を迎え、全校児童38名、教職員9名の4学級編成(1・2年生と5・6年生複式)で教育活動を進めています。

今年度から学校教育目標をわかりやすく、「本気 根気 元気」主体的に行動し、根気強く続け、元気で優しい児童の育成」とし、「知」「徳」「体」を中心として子どもたちの成長を支援すべく取り組んでいます。

◆学力向上に向けての取組

研究主題を「主体的・対話的に学びあう児童の育成」とし、算数科を通して取り組むこととしています。

本年度は、「小規模・複式校における授業改善・特色ある教育課程推進事業」の指定を三浦小学校との合同で受け、取り組んでいます。

子どもが主体的に学習できる授業づくりをめざして次のことに取り組んでいます。

- ノート指導
- 復習予習の位置付け(高学年)
- 週末プリントの実施
- チャレンジ授業の実施

○週3日の放課後学習での基礎学力定着を図る

本年度は特に、ノート指導に力を入れています。「田ノ口スタイル」と称し、見開き2ページで、授業の流れと思考がわかるように、ゆつたりと記入することとしました。予習ではノートに次の日の日付と問題文を必ず書き、余白には、吹き出しやカラーペンでの書き込みやキャラクターやマークを使った振り返りを行うなど、復習に活用できるようにしました。

成果はすぐに出るものではありません。しかし、小さなことをコツコツと根気強く取り組むことで向上します。地道な取組を進めていきたいと思えます。

◆読書活動の推進

「いつでもどこでも読書生活」をモットーに、読書活動を進めています。学校図書館を中心に、廊下にも図書書を並べ、新刊などを紹



介しています。毎年選書会を開き、子どもたちのお気に入りの本を購入しています。今年はチャレンジ読書手帳を作り、難しい本にも挑戦してもらっています。

毎週水曜日には、3名の読書ボランティアが読み聞かせに来てくださいます。どの学年も本を読んでもらうのが大好きで夢中になってお話を聞いています。本好きの子どもたちが増えてくれることを期待しています。

◆田ノ口小と言えば上林暁

本校は偉大な私小説家の上林暁の母校です。学校の入り口には「努力の碑」が建てられています。学校の中

にも上林暁コーナーがあります。作品の中には田の口のことが出てきます。総合的な学習の中で、上林暁のことを調べたり、作品の中に描写されている昔の田の口の様子や風景なども調べたりする計画をしています。今年から、読書祭りを「暁祭り」とし、大先輩・上林暁を子どもたちの心に浸透させていきたいと思えます。



◆ふるさと・キャリア教育

町ではふるさと・キャリア教育を進めています。本校では、昨年度より5・6年生が参加して「サーフィン教室」を行っています。これまで見るだけだったサーフィンを体験することで、改めて町内の自然の素晴らしさ、楽しさを感じるためです。この黒潮町の自然を求めてやってくる人々がいます。そういう人々取材し、外から見る町内の良さ

も見つきたいと思えます。また、昨年度より「紙漉き」の体験も取り入れていました。町内で生産された楮で和紙ができていることを知り、子どもたちが自分で作った和紙で卒業証書を作ります。立派な卒業証書ができ大満足です。

4年生は、町特産のラツキョウ作りや砂浜美術館についても学んでいます。そして今年、黒潮町の海についてもっと学びたいというところでホエールウォッチングも実施しました。素晴らしいふるさと黒潮町の自然をもっともっと知ってほしいと思えます。ふるさと大好きな子どもたち。そんな子どもに育ってほしいと思っています。

